



▲神奈川県横浜市に開設された第1号病院での診察

ソーシャル インクルージョンを 掲げる済生会って？

83の病院をはじめ、404の医療・福祉施設を運営する済生会は、日本最大規模の社会福祉法人として、全国40の都道府県で活動しています。

1911年、明治天皇の「貧しくて医療が受けられない人たちを救おう」というお言葉をきっかけに創設されました。以来、生活に困窮した人々への無料診療や、離島やへき地での巡回医療など、誰一人取り残さない「ソーシャルインクルージョン」理念が、すべての活動の原点にあります。



1911

▲日本で初めての
乳児院「済生会赤
羽乳児院」が開院



1911



2010

▼ジャパンSDGsア
ワードにて「内閣官
房長官賞」を受賞



2021

▲生活困窮者を支
援する独自事業「な
でしこプラン」を開始



職員への公募から誕生し
た公式キャラクター「さい
せい」。済生会の「S」とソ
ーシャルインクルージョンの
「S」を掛け合わせたデザイン
になっている。

ソーシャルインクルージョン を考えるWebメディア <シンク!>

済生会のWebメディア「シンク！」は全国
各地で実践されている
ソーシャルインクルージョンの取り組みを発
信しています。

更生保護

児童発達支援

アドボカシー

特定妊婦

気になる単語は、QRコードから
もっと詳しく見てみよう！



ソーシャル インクルージョン と済生会

みんなが一緒に暮らせる社会をつくる

障害や病気を持つ人、ひとり暮らしの高齢者、貧困家庭の子どもたち。

社会で孤立しがちな人々を、誰一人取り残さず、

共に生きていくという考え方——

それが「ソーシャルインクルージョン」です。

1980年代にヨーロッパで生まれたこの価値観を、

済生会は目指すべきビジョンとして掲げています。

さあ、ページをめくって誰も取り残さない

「ソーシャルインクルージョンの根付いたまち」を、

一緒に見ていきましょう！



◀済生会公式キャラクター
「さいせい」



ソーシャルインクルージョンなまちMAP

ここは、済生会が目指すソーシャルインクルージョンの根付いたまち。

誰もが地域で暮らす一員として、互いを尊重し、安心して暮らせるまちをつくるためには、まず、地域の人々について“考え、寄り添う”ことが大切です。

済生会ではソーシャルインクルージョンを

全国各地の職員が地域のニーズに合わせて実践しています。

ここでは、済生会の取り組みとともにまちの様子をのぞいてみましょう。

安心して医療サービスが利用できる

誰一人取り残さない保健・医療・福祉サービスを提供

救急医療や災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療、感染症対応まで。運営する医療・保健・福祉施設の連携を通じて、切れ目のない医療サービスを提供しています。

行政・企業や住民との協力で誰もが健康に安心して暮らすことができる

インクルーシブ社会を実現する「行政や企業との連携」

インクルーシブなまちは、済生会と地域の企業や団体が結びつくことで初めて実現します。各々の強みを活かした連携で、住民の暮らしを支えています。

〈茨城〉イオンモール水戸内原でのウォーキングイベント

経済的な状況に関わらずすべての人の健康が等しく守られる

生活困窮者への「無料低額診療」

経済的な理由で必要な医療を受けられない人々へ、医療を無料・低額で提供。誰もが安心して医療にアクセスできる環境を整えています。



医療的ケアが必要な子どももその家族も心身健やかに多様な未来に挑戦できる

訪問看護による「在宅レスパイト事業」

週に数回、地域の訪問看護師が重い障害や病気で日常的に医療的ケアが必要な子どもの自宅を訪れてケア。家族の日々の負担も軽減します。

（山口）下関総合病院が行なう在宅レスパイト事業



人生の最期を住み慣れた場所で自分らしく穏やかに過ごせる

特別養護老人ホームでの「看取りケア」

高齢者の生活の場である特養で、その人らしい人生の最期が迎えられるよう医師や看護師、介護職員、相談員などが連携し、サポートしています。

（滋賀）特養淡海荘の看取りケア



過ちを犯しても社会の一員として地域社会で生活できる

刑務所出所者への「地域定着支援・就労支援」

受刑者への介護福祉士養成研修や、更生保護施設への相談員派遣など、社会復帰できるよう支援しています。



障害の有無にかかわらずともに働く喜びを感じられる

障害者への「就労継続支援事業」

就業が困難な障害者の才能や能力を活かし共に働く場所・機会の提供や就労に必要なスキルの訓練を行なうことで、社会で活躍するための第一歩を応援しています。

